

(様式5)

市民意見募集手続の結果について

1 計画等の案の名称 上田市立産婦人科病院のあり方について(方針案)

2 募集期間 令和3年9月16日(木曜日)から令和3年10月15日(金曜日)まで

3 実施結果

(1)意見等の区分

区 分	内 容	件 数
ア 反映する意見	意見等の内容を反映し、案を修正したもの	0 件
イ 主旨同一の意見	意見等の同趣旨の内容が既に案に盛り込まれているもの	2 件
ウ 参考とする意見	案を修正しないが、施策等の実施段階で参考とするもの	6 件
エ その他	その他の意見	6 件
合 計		14 件

(2)提出方法

持参	郵便	電子メール	ファクシミリ	計
0 件(0 人)	0 件(0 人)	12 件(3 人)	2 件(1 人)	14 件(4 人)

4 意見に対する市の考え方

No.	意見区分	意見の概要(要旨)	市の考え方
1	(要望) 4 基本方針 (1)地域周産期医療体制の基盤づくり 5 基本施策 (1)信州上田医療センターとの医療機能の再編、集約化	・信州上田医療センターとの連携により、ハイリスクを伴う分娩をも積極的に受け入れ安全に行うことができる。 ・予期せぬ異常事態にも適切な処置が受けられる。 ・正常に経過している妊婦には助産師の主導で安心してリラックスして分娩の瞬間を迎えられるようきめ細やかな配慮と技術を発揮してもらいたい。 立合い分娩ができる。家族に産後指導を行う。例えば夫が沐浴させる。おむつ交換。新生児の扱い方など。	【主旨同一の意見】 ・方針案では、当病院運営審議会、地域周産期医療あり方研究会からご意見をいただく中で、医療の安全面を第一とした体制や支援を維持していくための方針としています。 ・信州上田医療センターとの医療機能の再編、集約化によりハイリスク分娩や予期せぬ事態にも対応できる医療提供体制の構築を目指します。 ・また、信州上田医療センターと機能分化、役割分担を明確にすることで、当院の果たすべき役割として、助産師等の持つ技術や経験を生かした指導や相談、教室等の充実を目指します。
2	(要望) 4 基本方針	・多職種のチーム医療による女性専門外来の開設	【参考とする意見】 ・方針案では、周産期医療提供体制の

	<p>(2) 妊娠から出産、子育てへとつながる体制づくり</p> <p>5 基本施策</p> <p>(5) 医療機関と行政が連携した母子保健事業の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期外来(生理痛、生理不順、ジェンダー平等、望まぬ妊娠、避妊、解剖的性教育、性病の知識) ・育児ノイローゼ、子育て学級 ・更年期外来(様々な不調、精神的、身体的) ・多職種とは助産師、看護師、ソーシャルワーカー、セラピストなど。 ・紹介状なしで気軽に相談できる窓口にする。 ・専門分野と知識を生かしたチームにより多角的なサポートをすると同時に福祉や教育分野など専門機関と連携して救済していけるシステムを作る。 	<p>再編、集約化に合わせ、医療機関と行政が連携した母子保健事業の充実についても施策として取り組むこととしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師の確保が難しい中で、当院単独での医師による新たな専門外来の開設は難しいと考えます。後期まちづくり計画に掲げた出産・子育てしやすい環境、安心して子育てできる環境の実現のためには、妊婦を含め、若年層に対する性に関する正しい知識の普及や女性がそれぞれの年代で必要とする医療の提供に繋がる体制や相談できる体制の整備など、当院の医療スタッフと様々な専門分野の人や機関とが連携していくことが必要と考えています。
3	<p>4 基本方針</p> <p>(2) 妊娠から出産、子育てへとつながる体制づくり</p> <p>5 基本施策</p> <p>(2) 上田市立産婦人科病院施設の有効活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あり方を考えるに当たり、産婦人科病院だけの問題ではなく、後期まちづくり計画に沿った地域全体の施策として・・・とあることは大事な視点だと思いますが、地域全体を「すべての市民が対象」と捉えてまちづくり計画をみると、19歳以降周産期前までのライフステージの施策が見当たりません。計画にないから取り組まないのではなく、産婦人科病院の役割としてその部分を担う立場で計画していただきたい。 例えば、専門外来(Dr.にあっては医療センターの支援のもとで)や助産師等を中心とした相談室的な部門の設置を検討していただきたい(受診し易く対応するとともに専門機関に繋がられる 	<p>【参考とする意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同上 ・当院のあり方や、医療機能の再編、集約化を検討するに当たっては、この地域で出産、子育てをする世代をはじめ、すべての市民にとって「安心して医療が受けられる環境づくり」、「出産・子育てしやすい環境の実現」を目指す、後期まちづくり計画に沿った形で進めることを基本としています。 後期まちづくり計画に掲げる各施策の実現に向けた取組として、産婦人科病院としての当院に求められる役割やニーズを把握することに努めながら、すべての世代の女性に対し、必要な医療の提供に繋げるための相談窓口の開設等について取り組んでまいります。 ・医療機能の再編、集約化を研究し進めていくに当たっては、「赤ちゃんにやさしい病院」の理念に基づき、継続して

		<p>システムとして)。</p> <p>また、ユニセフから認定されている「赤ちゃんにやさしい病院」として機能していける体制を重視していただきたい(助産師の出番を大事に)。</p>	<p>助産師、看護師が活躍できる仕組みや体制を整備してまいります。</p>
4	<p>4 基本方針</p> <p>(1)地域周産期医療体制の基盤づくり</p> <p>5 基本施策</p> <p>(1)信州上田医療センターとの医療機能の再編、集約化</p>	<p>・利用者の多様な要望に目を向ける配慮が必要です。</p> <p>7 年前の新聞記事(信濃毎日新聞社:医療センター産科再開)に市立産婦人科病院で4人目を出産予定の方の意見がありました。</p> <p>「難しい出産に対応できる大きな病院が地元にあるのは安心」として上で、「できることなら市産院のように、落ち着いた雰囲気産める所があればうれしい」と。</p>	<p>【参考とする意見】</p> <p>・地域周産期医療体制の基盤づくりを進めるうえで、利用者をはじめ、多くの皆様からの声を聴くことは重要と考えています。</p> <p>・施策を進めるに当たっては、多様な要望に目を向けながら、医師をはじめ限りある医療資源の効率的かつ効果的な活用について研究していきます。</p>
5	<p>4 基本方針</p> <p>(1)地域周産期医療体制の基盤づくり</p> <p>5 基本施策</p> <p>(1)信州上田医療センターとの医療機能の再編、集約化</p>	<p>・市民とともに作り上げてきた病院としての歴史を大事に、「信州上田医療センター」との医療機能の再編・集約化の具体的内容についても、自由な方法(会議等形式的でなく)で市民の意見を聞いていただきたい。</p>	<p>【参考とする意見】</p> <p>・同 上</p>
6	全体	<p>・上田市での周産期医療については、選択肢が十分にあり、待ち時間や対応などの質が維持あるいは向上し、産後ケアなどの母子保健事業も充実していることを望みます。</p>	<p>【参考とする意見】</p> <p>・基本方針として、当院だけの問題としてではなく、地域周産期医療体制の基盤づくり、妊娠から出産、子育てへとつながる体制づくりを目指します。</p>
7	全体	<p>・方針案と答申書を拝見し、具体的な意見を述べること</p>	<p>【その他の意見】</p> <p>・方針案では、基本方針として、当院と</p>

		<p>自体が難しいと感じました。理由は大きく2つで、①データや記述が曖昧で事実が分かりづらい点、②集約の具体的な期限や集約後の体制が示されていない点です。</p> <p>・このままなし崩し的に集約されるのではなく、今後は「政策的な関わり方」についてより詳細な集約後の案や計画が示され、上田市の周産期医療が後退せず充実することを、子育て世代として期待します。</p>	<p>信州上田医療センターの医療機能の再編による安定的で持続可能な医療体制の構築を目指した取り組みを進めること。上田市第二次総合計画(後期まちづくり計画)に沿った妊娠から出産、子育てへとつながる体制づくりについて、方向性を示しています。</p> <p>・具体的な内容につきましては、今後信州上田医療センターをはじめ関係機関と協議、研究を進める中で必要な情報提供を行い、市民や地域の理解を得ながら進めてまいります。</p>
8	2 上田市立産婦人科病院の現状と課題	<p>・「分娩取扱い数の最大値は平成 29 年度の 498 件で、令和 2 年度では最小値となる 302 件まで減少」とありますが、表 1 をみると出生数の差は 168 人の減少となっているのに対し、分娩取扱い数の減少数 196 件は、出生数の減少数よりも減り幅が大きくなっています。少子化が分娩取扱い数減少の原因ではなく、市産院が選ばれていないということなのではないでしょうか。</p> <p>・そうであれば、なぜ選ばれないのか、どうしたら選ばれるのかを検証したうえで、方針を提案すべきだと思います。</p>	<p>【その他の意見】</p> <p>・当院の分娩取扱い数減少の原因は、少子化だけではなく、地域内の出生数と各分娩取扱い施設の医療機能や医療資源とのバランス、お産に対するニーズの動向、当院における安定した医師確保が難しい中での病院に対する信頼など、様々な要因があると認識しています。</p> <p>・当院での分娩取扱い数は減少していますが、現在でも多くの皆様に当院を利用していただく中で、アンケートなどにより利用者の声を聴きながら医療、助産、看護サービスの向上に努め、選ばれる病院となるための取組を続けています。</p> <p>・一方で方針案は、当院固有の問題として捉えるだけでなく、地域全体の周産期医療提供体制を将来にわたって確保していく視点で策定しています。</p>
9	6 上田市立産婦人科病院の医療提供体制の見直しについて	<p>・「経営を維持するために必要な分娩数」とありますが、表 2 の市産院と医療センターの件数は「実績からの数値」となっています。市産院での必要数はどれくらいな</p>	<p>【その他の意見】</p> <p>・表 2 の数値につきましては、「地域周産期医療あり方研究会」において直接病院運営に携わる方々から報告があった数値です。グラフは同列に数値を並べているわけではなく、グラフ 1 では、</p>

	(2) 分娩数の減少と地域内分娩取り扱い施設の共存について	<p>のでしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同様に、医療センターについても450件が充分なのか不足なのか不明です。にも関わらず、同列に数値を並べ医療センターの件数が増えるのが良いことのように書くのは恣意的であり、客観的な意見が述べにくい情報提供になっています。 	<p>当院が閉院した場合を想定したグラフのため、地域内の各施設が共存していくために民間クリニック等で必要な分娩取り扱い数を確保したうえで、信州上田医療センターが現在の体制で受け入れ可能な最大数を取り扱った場合でも、地域内の推計出生数に不足することを表しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフ2につきましては、同様に民間クリニック等の分娩取り扱い数を確保したうえで、地域内の推計出生数に対して医療提供体制を確保するために、公立である当院と公的である信州上田医療センターとで医療機能の再編により取り扱う分娩数を表しています。 ・当院では、最大分娩取り扱い数498件となった平成29年度においても医業収支につきましては損失を計上していることから必要な分娩取り扱い数としては、550件程度と考えられます。 ・医療センターについては、現在の医師や助産師等の体制で600件が最大値という報告からすると、450件は少し余裕のある件数であると推測できます。
10	<p>5 基本施策</p> <p>(2) 上田市立産婦人科病院施設の有効活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「病院施設を医療、保健、福祉施設等として有効に活用します。」とありますが、具体的にはどのようなことが考えられるのでしょうか。それが不明では意見を持ちようがありません。集約化や閉院が決まってから示すのでは遅いと思います。 	<p>【その他の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機能の再編、集約化による機能分化と役割分担の中で、当院に残す医療機能や役割を果たすための施設として活用することを考えています。 ・例えば、医療機能が縮小することで余剰となる医療資源を活用した、助産師、看護師による妊産婦の相談窓口の開設など、病院機能と保健事業の連携による母子保健事業などの活用を考えています。
11	<p>5 基本施策</p> <p>(5) 医療機関と行政が連携した母子保健事業の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市産院があったこれまでに「医療機関と行政が連携した産前産後ケア」が充分に行われていない現状があるにも関わらず、市立ではない医療センターと連携し「妊 	<p>【その他の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関と行政が連携できる体制を研究し、悩みを抱える妊産婦や思春期、更年期などすべての女性に対して、早期対応するとともに、継続した支援が行える体制の整備を目指しています。

		<p>娠から出産、子育てまで切れ目のない支援体制を確立」と言われても期待できません。どのような支援が可能になるのか具体的に知りたいです。</p>	
12	<p>5 基本施策</p> <p>(1) 信州上田医療センターとの医療機能の再編、集約化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療センターとの医療機能の再編、集約した場合に医療センターの体制がどう変わるのでしょうか？ ・現状でも医療センターでは、スタッフの多忙さが患者からも見て取れました。再編・集約化し、利用が増えることで更に不便や質の低下が起きるのであれば、さらに地域の少子化を進めることになると思います。 	<p>【その他の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機能の再編、集約化は、医療センターが担う部分と当院が担う部分とを機能分化して行うことを目指しています。 ・機能分化して周産期医療を提供するとともに、相互の医療機能を補完し合うことで、双方の医療資源を有効活用することで、安全安心な医療の提供と利用者への利便性やサービスの向上を目指します。
13	<p>5 基本施策</p> <p>(4) 地域の医師、助産師、看護師等、医療スタッフ確保対策の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療スタッフの確保は安心な医療提供の基本です。 ・医師、とくに産科医師の不足は深刻ですが、こういう時こそ助産師を中心にしたお産ができる体制整備が必要と思います。 ・専門家である助産師が活かされてこそ「赤ちゃんにやさしい病院」 ・医療センターとの連携と充実でハイリスク分娩の安全を担保する。 ・選べるお産体制づくり 	<p>【主旨同一の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方針案では、医療の安全面を第一とした将来にわたり安定的に当地域に医師を確保できる体制の構築を目指しています。 ・信州上田医療センターと機能分化、役割分担を明確にすることで、当院の果たすべき役割として、助産師等の持つ技術や経験を生かした指導や相談、教室等の充実を目指します。 ・信州上田医療センターとの医療機能の再編、集約化によりハイリスク分娩や予期せぬ事態にも対応できる医療提供体制の構築を目指します。
14	<p>5 基本施策</p> <p>(2) 上田市立産婦人科病院施設の有効活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期は8歳から18歳までの少年期と青年期の間の世代です。子どもから大人に成長していく過程で、自分の体や心の変化への戸惑いや悩みに対し、誰もが相談のできる診療科を設置することを強く要望します。 ・また、思春期以降(19～20 	<p>【参考とする意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方針案では、周産期医療提供体制の再編、集約化に合わせ、医療機関と行政が連携した母子保健事業の充実についても施策として取り組むこととしています。 ・医師の確保が難しい中で、当院単独での医師による新たな専門外来の開設は難しいと考えます。後期まちづくり計

		<p>歳)の年代に対しての施策がありません。この年代層への保健事業の計画策定に取り組むことを要望します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期外来(思春期としていかどうかはわかりませんが) ・助産師の各教育機関(小中高校等)への出前講座の設置、助産師の専門性を活かした、各年代に応じた講座を要望します。 ・レディース外来、子どもを産む女性の身体の変化に対応でき、思春期から老年期までを診察できる総合診療科の設置を要望します。 	<p>画に掲げた出産・子育てしやすい環境、安心して子育てできる環境の実現のためには、妊婦を含め、現在も行っている中学校での助産師による出前講座などによる若年層に対する性に関する正しい知識の普及や女性がそれぞれの年代で必要とする医療の提供に繋げる体制や相談できる体制の整備など、当院の医療スタッフと様々な専門分野の人や機関とが連携していくことが必要と考えています。</p>
--	--	--	---

※類似の意見はまとめて回答しているため、提出件数と一致しない場合があります。